

会 議 録

会議の名称	第5期西東京市子ども読書活動推進計画策定懇談会 第8回会議録
開催日時	令和8年3月6日（金） 午後1時から3時
開催場所	イングビル 3階 第3会議室
出席者	<p>【委員】藤本座長、鈴木副座長、島委員、小原委員、福岡委員、小田委員、森澤委員、菅野委員、佐伯委員</p> <p>欠席：金澤委員、岩田委員、榎本委員、森田委員、大庭館長</p> <p>【事務局】山田副主幹</p>
議 題	<p>1 第7回会議録の確認について</p> <p>2 パブリックコメントのご意見と市からの回答について</p> <p>3 第5期西東京市子ども読書活動推進計画（案）について</p> <p>4 今期懇談会の振り返り</p>
配布資料	<p>1 パブコメ検討結果（市HP）（案）</p> <p>2 第5期西東京市子ども読書活動推進計画（案）※2026.3.6時点</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><議題1 第7回会議録の確認について></p> <p>○座 長：次第1、前回の会議録について事務局からご説明を。</p> <p>○事務局：会議録について、委員への送付が直前となってしまったため、目を通されていない方もいらっしゃると思う。本日朝までにご指摘いただいた箇所は修正し、本日の配布資料に下線にて反映している。後ほどお気づきの点等あれば、お手数だが、一週間をめでにメールで事務局の方までお知らせいただきたい。</p>	

<議題2 パブリックコメントのご意見と市からの回答について>

- 座 長：引き続き、次第2、配布資料2について事務局からご説明を。
- 事務局：前回懇談会の後パブリックコメントの締め切りを迎え、最終的に25件、11人のご意見の提出があった。内容を整理したものが配布資料2である。ご意見の中で、計画本文への反映をしたご意見は「電子書籍の収集方針」に係る1件である。この後、市からの回答は、市報3/15号、市ホームページへ掲載する。市報は紙面の関係で抜粋し2件（「日本語を母語としない児童への取組について」「電子書籍の取り扱いについて」）を掲載予定。
- 座 長：全25件で11人の方からご意見があったということは、お一人で複数の意見を出されたということか。
- 事務局：そのとおりです。
- 副座長：学校司書の配置に関する意見は3件寄せられているということでよいか。
- 事務局：そのとおりです。
- 副座長：11番のご意見について、時代の「流り」という表現があるが、これは原文のままか。「流れ」の意と捉えてよいか。
- 事務局：おそらく原文のままだと思うが、確認する。事務局としては「流行り」の意と捉えていたが、基本的には、日本語的に全く意味がわからない表現や、明らかに間違った表記以外は、基本的に原文のまま掲載している（懇談会后、提出意見を確認したところ原文のままであった。館長に状況を報告し、今回は提出意見の表記のまま掲載することとした）。

<議題3 第5期西東京市子ども読書活動推進計画（案）について>

- 座 長：議題3に進めていく。お手元の計画案について事務局からご説明を。
- 事務局：前回お配りした計画案からの修正点等を補足させていただく。まず1ページ目のIこれまでの取組2第4期計画の成果について、章立てと内容を大きく変更させていただいた。前回の会議での、「学校図書館の一層の活用」について、成果がここに記されていないというご指摘をもとに変更している。具体的には、2の(1)、前回までは「子どもと本の出会いの場を子どもの身近なところで数多く設定しました」という項目を立てていたが、「読書環境の一層の整備と充実を図りました」という項目に変えている。そしてこの章の内容が団体貸出から始まる主に図書館の取組について述べる内容になっているが、前段に前回までは「団体貸出を利用する団体は…」といきなり団体貸出のことが述べられていたが、少し唐突すぎるため、「図書館では、子どもたちが日常を過ごす身近な場所でたくさんの本と出会えるように市内の乳幼児実設、小・中学校、児童館・児童センタ

一、学童クラブ等への本の団体貸出を行っています」という3行を追加した。そして、「学校図書館の一層の活用を図りました」という項を新たに立項した。こちらの章の内容は、以前1にあった学校図書館の取組を2に移行したものである。そして以前の2「手遊びわらべ歌の充実を進めました」という内容は1の方に取り込んだ。そこに「わらべうたの時間」の画像が挿入されていたが、スペースの都合で削除した。

14ページの一番上の児童館の取組③「地域のお話サークル・ボランティアとの協力と連携」の中で「お話会」の漢字表記を、意味合いに合わせてひらがなに修正した。17ページの2の③も同様である。また、■■委員のご所属名について田無児童館となっていたが、田無児童館館長に変更させていただいている。あとは最後のページの奥付について、4期までは、発行：西東京市教育委員会という表記のみであったが、加えて編集：教育部図書館とした。あとは、前期に引き続き表紙に西東京市のキャラクターいこいなイラストを配置する予定。あとは、段落を修正したりレイアウトを変えたりといった軽微な様式上の修正を行った。

○座長：ありがとうございます。前回、懇談会での指摘により、4ページ2の「学校図書館の一層の活用」を立項したのが一番大きな変更だったかと思う。ご覧になって気がついたことなどもあればどうぞ。

○副座長：フォントが前期と変わっているようだが、ユニバーサルデザインの観点からか。比べると読みやすくなっている。

あと、発行は西東京市教育委員会で、編集は図書館とわけたということか。

○事務局：はい。この計画は教育委員会の計画だが、編集は各課のご協力をいただいて図書館がしているということで、実態に合わせ今期からそのように記載している。

○座長：この後、計画冊子は何部発行され、どこに配布されるのか。

○事務局：150部です。配布先は首脳部会議、教育委員、市議会議員、図書館協議会委員、各担当課、市図書館、国・都立図書館など、あとは本策定懇談会委員、また、市ホームページにも掲載予定のため市民も閲覧可能である。

○副座長：学校の取組に関しては、教育指導課から学校の先生へ、計画に絡めて今後取り組んでほしい内容など、校長会を通して周知いただくような流れになるのか。

○委員：はい。

○委員：前回懇談会の際、学校司書の仕事として、学校の先生と連携をして授業の準備や手助けがあるにも関わらず、司書には教科書が配布されていないということを伺った。今後、この点について改善できないものか。委員のお考えを伺いたい。

- 委員：教科書の配布については、学校司書が教員の授業デザインに合わせて資料を用意するというはその通りだが、原則として、授業者である教員が、教科書を持って司書に相談を求めていくものであると考えている。
- 委員：司書は手元に教科書を持たなくてもよいということか。
- 委員：基本的にはそのように考えている。司書が手元に教科書を持ち教員に提案するものではなく、授業者である教員が求めていくものなので、司書が常に手元に置いておくことについては、原則として必要ないと考えている。
- 委員：以前は配布されていたものがなくなって困っているという声が上がっているが、実際に学校司書の声聞くような場があったのか。このことについて、説明ややり取りがあったのか。
- 座長：なぜ教科書を配布しなくなったのか、可能であればご説明いただければと思う。また、今後の見通しとしてはいかがか。
- 委員：教科書の予算面をどう調整してきたかは、直接の担当でないため、今ここで答えすることができない。
- 副座長：私に関わらせていただいていた地元の小学校について、図書室が変わるときに、そのときの司書の先生が直接校長を通していろいろな要望を挙げられたのだが、残念ながらお話を聞いていただくことができず、私が教育委員会にお話をしに行き、その後、あらためて司書さんからお話を聞いていただけた事例があった。校長先生から事前にお話が言っていると思って教育委員会にお話をしたが、そこがうまくつながっておらず、もう一回お話を聞いていただいたところでうまく話が進んだということがある。
- 子どもにとって司書の先生が自分の習っている教科書を持っていてくれて、話がしやすい状況であるということが望ましいし、配布できていたものがなくなってしまったことは非常に残念である。その点を、司書連絡会から校長会を通して話をしないと動かないのかということが疑問。教科書はもちろんお金が掛かるものだと思うが、各学校図書館にないと困るものとする。校長先生を通さないと変えられないのか。
- 委員：校長会との連絡や協議を経て進めるというのは揺るぎないことと考えている。現場の生の声も聞いており気持ちは理解できるが、組織の長と話をすることは必要である。したがって、このような場では校長会と連携していくとしかお伝えできない。
- 委員：おっしゃっている意味はわかる。組織の中で動くことと、市民の中で動くことの違いは体験しており理解している。ただ、学校図書館に配られていた教科書が配られなくなった理由が市民にはわからない。配布が中止になり、また必要であるという場合は、正式なやり方をしたらどうかというアドバイスがあったと捉えた。

○座 長：承りました、という形で議事録にはまとまるかと思う。しかし、このような話題が出たというのが議事録に残ることが大事というふうと思う。市民の感覚としては、このように思っているんだということが伝わると思います。

<議題4 今期懇談会の振り返り>

○座 長：これで計画案が出来上がって公開をしていくということになる。ここまでが今期の懇談会の仕事だが、座長として、委員の皆様のご意見とご支援のおかげで何とかここまで計画をまとめることができたことに感謝申し上げます。次期計画策定に向けて、皆様から、今期策定懇談会についてのご感想・ご意見、次年度に予定されている周知事業についても、アイデアなどお寄せいただけたらと思う。

○副座長：皆様と色々なお話をするなかで、子ども読書活動推進計画はどうあるべきか深く考えた数か月であった。前期から引き続き委員を担っており1期から携わっているため、この計画が始まった時の趣旨「子どものために」という一番大切な部分を揺るがせにはいけないと考えていた。積み重ねが大切であり、現計画より今後の5年間の計画がもっと良くなってほしいという気持ちで取り組んだ。前期はコロナの渦中での策定であったため、7月からスタートしたが、今期はもっと早期にスタートした方がよかった。年度の初めからスタートし、11月頃には計画案ができていれば、推敲する時間ももっと取れたと思う。4期の基本方針（学校図書館の一層の活用）をこれまでの取組の章に立項していなかったことなども、スケジュールにもっと余裕があれば、事前に修正できたと思う。また、起草委員会では、市民が参画し、行政だけではなく、みんなで子どものことを考えるという作りになっており、これを続けていくことの意味は大きい。次期計画策定の際にも、できればそのやり方を継続してほしい。

学校図書館の見学を希望していたが、今期は時間的な制約もあり叶わなかった。余裕を持ったスケジュールリングでこれを実現させてほしい。

周知のためのイベントに関して、前期はコロナ禍で、準備時間が短く、ボランティアのサークルや市民団体との関わり方も性急であったように感じた。今期は、市民と協働して一緒にうまく周知事業を進めてほしい。パネル展も前回はいいものができていたので、なるべくいろいろな人に見てもらえるような方法を模索してほしい。また、イベントは大人向けのものだけでなく、子どもが楽しめる、子ども参加のイベントも企画してほしい。

○委員：懇談会の当初、子どもたちの生の声を聞く機会があればというお話をした。今期はスケジュール上難しかったと思うが、国レベルの有識者会議でも、子どもを対象としたアンケートと一緒に対面のヒアリングも実施して

いる。ぜひ西東京市でも生の声を聞く機会として実施できると良い。子どもの読書活動を進めるにあたっては行政だけではだめで、やはり、地域・ボランティアなど市民が入っていることが大事だと思う。

○委員：委員それぞれ他の仕事もある中で、計画策定のスケジュールに余裕がなかったこともあり、忙しく大変であった。次期は早めに準備をスタートすることを望む。また、懇談会委員には、事前に資料を配布してほしい。前期の計画冊子等を委員の人数分用意し、懇談会が始まる前に配布してもらいたい。過去の会議録がホームページ等で見られることなども、委員に決まった段階で情報共有してもらおうとよい。

市民とそれぞれ専門性のある現場の職員が集まって、計画を作り上げることは大変手間がかかるが、このようなやり方をしていることは意味深い。その点で西東京市はありがたいと感じている。委員には公民館の職員も入っているとよいのではないか。公民館では保育や子どものための事業も行っており、図書館とともに社会教育施設であるので、次期の委員選考の際検討してもらいたい。

○委員：■■委員のご感想にもあったが、策定懇談会のスタートまでに資料に目を通して、初回の会議を有意義な内容にできるように、簡易なものでも資料を事前に配布してほしい。全体を通して印象に残っているのは「学校図書館は本が好きな子ばかりではない」ということ。公共図書館との違いは学校図書館は義務教育を受けている子ども全員が行ける図書館であるということ、学校司書さんは、本が好きではない子に対してもなんとか本とつなげるための努力をされていて、大変ではあるが非常に大切なお仕事であると感じた。大変なこともあるが頑張っていたきたい。

○委員：市民公募の委員として参加したが、1年間大変勉強になった。起草委員会のことは第1回目の懇談会に知り驚いたため、次期では、初回到起草委員会の成り立ちやしくみを計画スケジュールとともに説明してもらえるとよい。当初計画冊子を作るイメージはなく、外部でイベントに参加するなどの活動を想定していたが、早期に開始しスケジュールに余裕があれば学校見学などもできたと思う。おはなし会やよみきかせは、読書の最初の経験としてとても重要だということもわかった。そのような場所で見学や体験もできたらなおよかった。学校司書や、普段お目にかかれない方からいろいろなお話を聞くことができ、実りの多い活動ができたことに感謝したい。

○委員：「学校図書館の一層の活用について」は、最終段階で立項されてよかったが、その前に委員に共有してもらえるとよかった。会議の時間に関しては、学校は12時15分までの授業で、給食と移動時間も含めると13時は難しい。せめて15分でも遅めに開始時間を設定できるとよい。

3月は子どもの成長が見られる。ひとりで選べる、読み進める、好きな本に出あえる、そこに人がいて本とつなげる仕事の大切さをあらためて感じた1年だった。子どもと本をつなげる大人はたくさんいる。そのことを感じた会になった。本は努力しないと読まれない。その努力まであと一步、背中を押してあげられる大人がいれば、子どもは本とつながれる。この計画がそんな後押しができる大人の目にとまり、きっかけになればと願う。

○委員：みなさんと議論しながら計画を作っていく、大変良い機会となった。ただ、原稿の確認については、公立保育園10園の確認と課の承認を得なければならないため、時間がかかる。そのことを踏まえ、スケジュールには余裕がほしい。また、開催する曜日に関しては、金曜日固定は参加できないこと多く、7月スタートの場合はすでに年間の会議予定は決まっているため、やはり早めのスケジュールが望ましい。

○委員：1年間ありがとうございました。読書「を」進めていくこの懇談会、読書「も」進めていく指導主事、この兼ね合いの中で、難しさを感じた会であった。学校司書については、小・中2校兼務のメリットを生かして、協力関係を築いてやっていただきたいと考えている。やりたいことはたくさんあるが、昨今は放課後にいじめや不登校の対応など、読書以外の対応もある中で、悩みの多い1年であった。そんな中で、西東京市の小学校では読書の時間を多くとっている。不読率の割合も、西東京市は都や全国より少ない。先生も司書も頑張ってくださっていると認識しており、感謝している。

○座長：みなさんありがとうございました。一つ一つ重たく受け止めた。この計画は西東京市の特徴の一つなのではないかと感じている。岡山市は文化の町宣言をしているが、西東京市は「子どもの読書の町」宣言をなさったらよいのではないかと。懇談会の中で、个性的なおはなし、矛盾を含んだような活動にも気づかされて深く楽しんだ。この経験を今後の子どもの読書活動にも活かしていきたい。また機会があれば、みなさんと関わりを持たせたいと考えている。最後に事務局からどうぞ。

○事務局：本日、市議会対応中で欠席の図書館長から、このたび無事計画案がまとまり、これまでの委員の皆様のお力添えに感謝いたしますとのこと、代理でお伝えする。また、同じく欠席の森田委員より、反省点を預かっている。懇談会の中で幼稚園の取組についてご指摘があったが、アンケートの実施先に幼稚園を加え、生の声が生かせるようにと考えている。また、アンケートでは乳幼児とその保護者の回答率が低かったため、改善のための方策を検討したい。

次期への申し送りとしては、会議の設定時間について、次期計画の際には、学校関係の委員のご出席がしやすい時間帯に設定したい。策定懇談会

のスケジュールに関しては、今期の反省を踏まえ、年度当初のなるべく早い時期にスタートできるように記録に残しておく。職員の場合は、5年後の人事が未定であるが、少なくとも図書館の職員1名は留任し、前期までの基本的な考え方や、会議の進行などについてスムーズにいくよう考慮したい。

次年度の計画周知のためのイベントについては、予算が確定し次第検討する。場合によっては、委員の皆様にご協力いただくこともあるかと思う。その際はぜひお力添えいただければ幸いである。

至らぬ点ばかりでしたが、会の進行を支えてくださった座長・副座長、たくさんのご意見を寄せてくださったり、原稿を作成してくださった委員の皆様、本当にありがとうございました。

○座長：それでは、これで策定懇談会を終了する。ありがとうございました。